

CARTONNAGE

パウダーボックス

*Powder
Style*



TASSEL & CARTONNAGE

CARTONNAGE
*Powder
Style*

パウダーボックス

カルトナージュには「小箱」や「手箱」と呼ばれる携行型の箱を好んで仕立てる領域があります。小さな箱を巧みに作り上げていくカルトナージュの楽しみ方です。中でもカルトナージュを代表する典型がサークル形（円形：circle）です。おだやかで優しい特徴を強く表す丸い形は、多用途・多目的に用いることができますが、場合によっては輪郭の美しさにとらわれると、モチーフの実感は暈けてしまいがちです。モチーフの意図を明確にした伝え方に難しさがあるものの、汎用的で標準化された丸い形態だからこそ、サークルにしかない仕立て方があるように思います。

本テキストでは、「パウダーボックス」という化粧小物箱をモチーフに、カルトナージュのスタイルとして位置づけてみたいと考えています。サークル典型の手法を拓けることで、サークル形の展開からどのようなカルトナージュの物語や世界観がつかれるのか、カルトナージュづくりを感性のモノへ回帰していく際に役立てば幸いです。

Tassel N

I - STYLE CONCEPT

History

粉おしろいの箱

パウダーボックスは粉おしろいを包装するための箱です。19世紀後半から20世紀前半につくられた意匠には、フランスのロココ調の優雅な紋様があしらわれ、アールヌーボーやアールデコの影響を受けた、美しい装飾を凝らした箱だったのです。主に用いられたサークル形は、旅行の際に女性の帽子や化粧小物を輸送する収納箱の典型でもありました。サークル形は、カルトナージュの近代史を物語る形の起点になるものです。

Brand

アンティークな小物箱

日本史における“おしろい”は700年後半に大陸より伝来したとされます。もとは婚礼道具であった粉おしろい（箱）が、現代にはメイク道具のファンデーションとして定着しています。江戸後期から庶民が化粧を嗜むようになると、着物の絵柄に応じて色合わせをしたり、装飾には役者絵や美人画が用いられていました。

昭和初期にかけて粉おしろいを入れる容器は、木箱、缶箱（ブリキ、アルミ）等で作られていましたが、物資の乏しい戦時中は紙箱で製造されました。昭和初期の紙箱は、ボール紙の表層を艶紙で化粧貼函し、円形・正方形を一般的な形として、斬新な六角形、菱形、八角形まで作られていました。

今日のパウダーボックスは携帯用化粧小箱となって、和洋問わずアンティーク小物箱として、現代にも人気を集める魅力を持つようになります。

POINT

カルトナージュの起点

- ・造形の象徴性
- ・ロココ
- ・アールヌーボー
- ・アールデコ

POINT

モノづくりの新しい価値観

- ・暮らしの変化
- ・化粧文化
- ・必然的な実用性

I - STYLE CONCEPT

Theme

「花と女性」がテーマ

パウダーボックスは形に合わせた柄をデザイン的にあしらった、強い意匠装飾性が特徴です。アールヌーボーやアールデコの影響は、小花のレリーフや草花、蝶や花の精、女性の肖像がモチーフとなって表され、ローズ、エメラルド、ゴールド、ヴァイオレット等の色をエレガントに使い、花と女性をテーマにした箱として、魅力的にみせる工夫がされています。

Value

パウダースタイル

パウダーボックスには、粉おしろい箱としての化粧文化や歴史を背景にした、間接的な付加価値を感じさせるところがあります。実用目的からすれば“パウダー”と呼ぶと語弊がありますが、使い勝手のよい化粧小箱やアクセサリ小箱づくりの、モチーフになることが期待できます。スタイル化する場合に、実用的な価値以上のプラスαがあったとき、カルトナージュの付加感性が現れてくるのではないかと考えています。

パウダーボックスは、これまでカルトナージュのカテゴリーには“ありそう”で、実はなかったモチーフです（2014年11月発表現在）。化粧小箱使いというのは転用であって、スタイルから類型をつくりだしていく場合には、カルトナージュにおいて新しいシェイプや箱の形を生み出していくことが合わせて重要です。

パウダーボックスの形・大きさ・装飾性を活かしたスタイルづくりから、「パウダースタイル」と呼べる新しいカルトナージュが望まれます。

POINT

創作テーマ

- ・エレガントな女の小物
- ・小花レリーフ
- ・蝶や花の精
- ・女性の肖像

テーマカラー

- ・ローズ
- ・エメラルド
- ・ゴールド
- ・ヴァイオレット

POINT

形の体系「用のカタチ」

- ・化粧小箱
- ・アクセサリ小箱

付加感性の表現

- ・間接的な付加価値
- ・プラスαの工夫

I - STYLE CONCEPT

Style Form

パウダースタイルの典型

パウダースタイルには3つの視点として、箱の形態・機能・装飾性が重要です。箱の形態に個性があり、箱の機能には実用に供する形の特徴をもたせ、装飾性に正当なまとめ方のセンスがあることです。

パウダースタイルの基本形

パウダーボックスの基本形は、正円形および正四角形を基本とすることができます。

正円形や正四角形から拡張していけば、隅落としや角丸形、五角形、六角形、八角形等の多角形にも展開できます。また、花形や菱形・扇形を使って、和のテイストで仕立てることも可能です。パウダースタイルの箱は、小さいからこそ魅力を一点に集めた箱作りをすることを狙うのです。



正円形



正四角形



正五角形



正六角形



正八角形



花形

POINT

スタイル要件

- ・箱の形態
- ・箱の機能
- ・箱の装飾性

箱の形態

- ・円形
- ・四角形
- ・角丸形
- ・五角形
- ・六角形
- ・八角形
- ・菱形
- ・扇形
- ・花形

手のひらにのる 8cm ~ 9cm の大きさ

携行化粧箱と呼ばれるパウダーボックスは、手のひらに収まる大きさと設計することです。箱の基礎寸法として捉えると、幅 8cm ~ 9cm、高さ 4cm ~ 5cm が目安になります。明治期から使い始めたパフの大きさが元になって、できあがったスケールではないかと考えられています。



蓋と箱

“収まり”を慣習してきた小箱は、蓋付きの保管・収納する形態が基本です。蓋を組み合せる場合は、被せ蓋式、落とし蓋式、のせ蓋式、身蓋を継ぎ手で合わせる印籠蓋式の形態まで広がります。蓋付きの実用を考えたり、形の美装に工夫を凝らす等してスタイルの骨格を示していきます。

見せ所をつくる装飾性

意匠表現はデザイン的な「外観の飾り方」です。蓋の天面をデコレーションしたり、側面の形に合わせた柄でリピート遣いする等、カルトナージュに見せ所をつくるのです。蓋の形や付属させるスタイルパーツに拘ることも創作の醍醐味です。装飾にはモールやフリンジを使い、シルエットのエッジを効かせる等、モチーフとカルトナージュとの接点にある、仕上がり感を追求した独自のスタイルが展開できます。

POINT

箱の大きさ

- ・幅 8cm ~ 9cm
- ・高 4cm ~ 5cm

POINT

蓋の種類

- ・被せ蓋
- ・落とし蓋
- ・のせ蓋
- ・印籠蓋

POINT

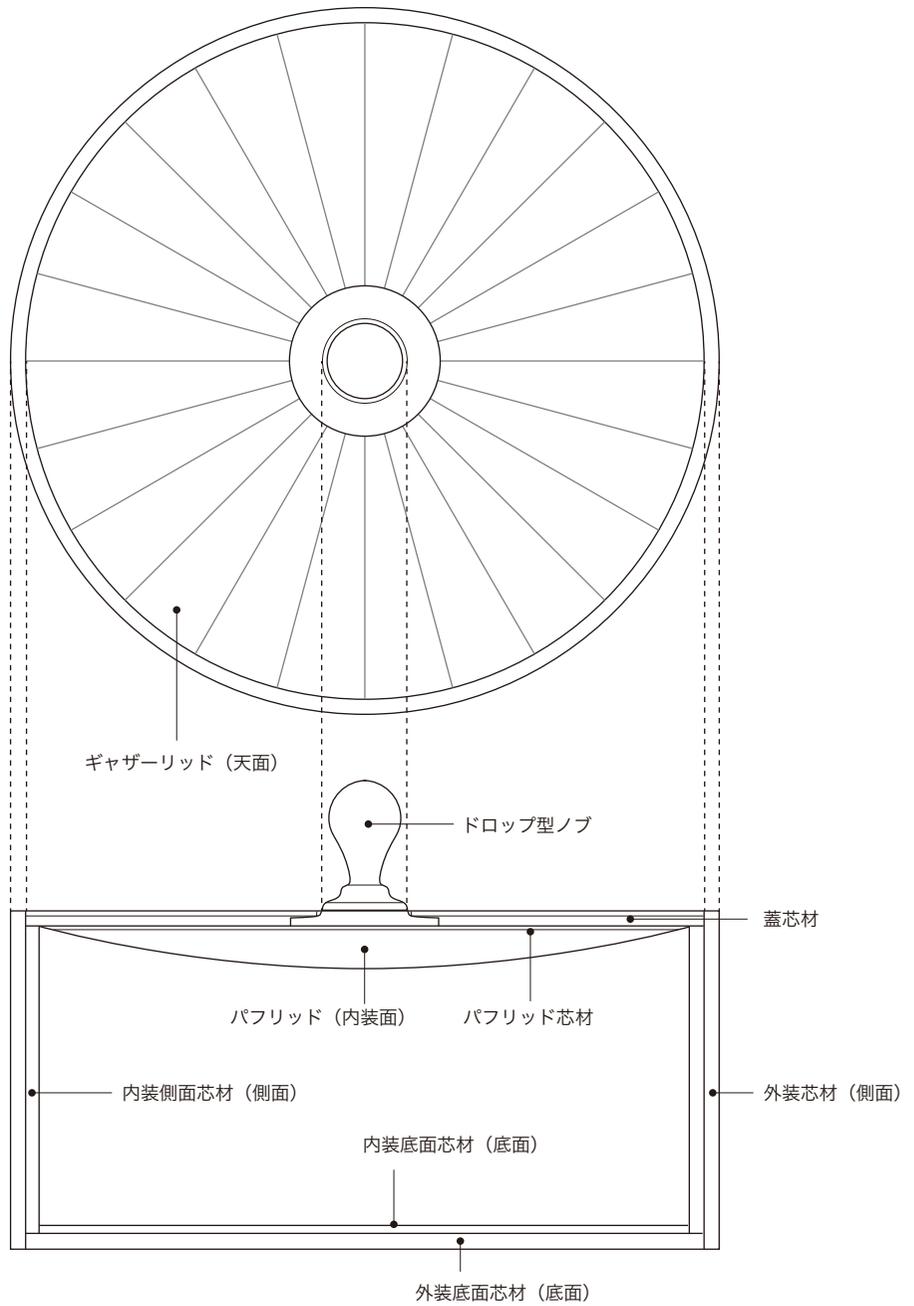
造形と装飾のバランス

- ・形に合わせた柄
- ・形のシルエット
- ・デザイン的に飾る

ディテール

- ・エッジ
- ・アクセサリパーツ
- ・モール、フリンジ

【パウダーボックスの作例／二面図】



Style Point

パウダースタイルの特徴



スタイルを象徴するディテール

作例のパウダーボックスの構造は、円筒を筐体にして、蓋の天板を上から胴の中へ落とし込んで、口辺ですりきる落とし蓋式です。蓋が身箱の内側へ入るため、スマートな箱のシルエットとして目に映る効果があります。また、身箱から蓋の取り外しを容易にするために、パフを想わせるドロップ形状のつまみ部品を特製しています。ドロップノブが天面のトリムと一体型の蓋になるよう、接着だけでノブを蓋に固定する専用設計です。

化粧パフを意図した蓋の表装は、布寄せしたギャザー風の化粧仕立てです。天板の意匠にはギャザートリム、裏天板にはパフ形状のクッションを組み合わせた、パフリッドというスタイルです。蓋全体を、実際のレトロな化粧パフをイメージしたもので、パウダースタイルを象徴する重要なディテールとして特徴づけています。

POINT

パウダーディテール

- ・落とし蓋
- ・化粧パフモチーフ
- ・ドロップ形状ノブ
- ・ギャザートリム
- ・パフクッション

ドロップ型リッドノブ



落とし蓋を取り上げる専用のつまみ部品。パウダーボックスの意匠に組み込む重要なディテールになる。

ギャザートリム



布地でパフ面のアーチを形成するギャザーは、ひだ寄せしてできた布地の歪みを表現するディテール。作例では、意図してギャザー風にひだ寄せした布地を、デザイン的な蓋の表装意匠として用いている。



パフを模したリッド



落とし蓋を取り上げる専用のつまみ部品。パウダーボックスの意匠に組み込む重要なディテールになる。

底面はモザイクトリム



パウダースタイルの要件ではないが、底面を四分割して貼り合わせる化粧組み付けの方法。布地に柄や繊維の視覚的なパターンや方向性が現れてくる場合は、柄の方向や集まり方を考慮した装飾技法として有効。

Prototype

パウダーボックスのスタディモデル



設計寸法を算出する

カルトナーージュの構造と設計は、カルトンで試作するスタディモデルを元に検討することが重要です。組み立て手順を想定しながら、基本構造のアウトラインをつくり、化粧貼りを含めたみなし寸法を算出するのです。

単純なサークル形であっても、本体の組み立て方は「組み付け」式になるため、カルトンの厚みと布地の厚みを加えた、みなし寸法の見当立てが重要になります。

組み付けるパーツは、組み上がった際の構造強度にも関係するため、全体のバランスをまとめながら、部位ごとに使用するカルトンの厚みを適切に決定していきます。蓋においては、ギャザーに必要な型紙を作ったり、身箱においては、外装でフィックスさせる底板の直径や、内装の化粧貼りに使用する裏打ち芯の寸法を求めたりします。特にパフリッドとパウダーノブの接合は、蓋を開閉する動作に照らして、詳細に検証しなければなりません。

POINT

スタディモデル

- ・みなし寸法
- ・組み付け方法

スタディモデルのパーツ



カルトンモデルのパーツは、サークルボックス（底面・内装側面・外装側面）、リッド、テンプレート。リッドの天面をギャザー用の芯材でフィンに構成し、中央からドロップノブを抜き通している。

ギャザートリムの試作



布地を寄せてひだ状に張ったギャザー風の意匠。円形の内径と外径とではひだ幅が違うため、ドロップノブを抜き通す穴で内径と外径の差を調整する。

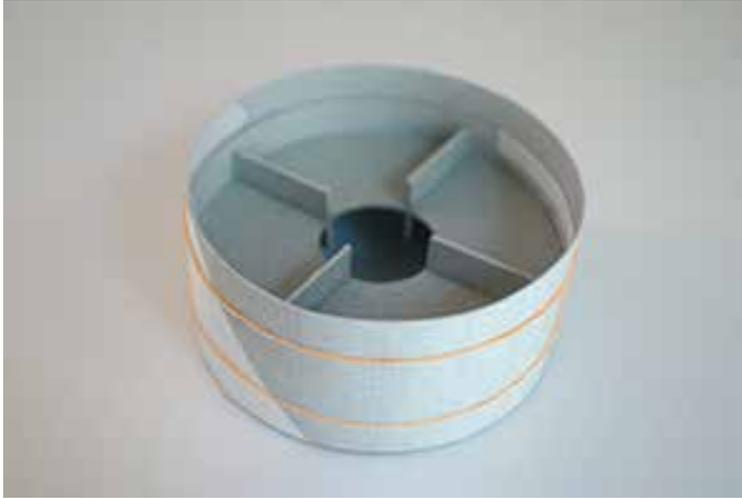
POINT

パウダーディテール

- ・落とし蓋
- ・化粧パフモチーフ
- ・ドロップ形状ノブ
- ・ギャザートリム
- ・パフクッション

Template

円環成形法



シリンダー形の胴成形

カルトンを曲げて円筒形にするには、成形型を用いることが重要です。円筒の内径で成形型が固定するよう、底と同じ円形板を用い、円形板の中心に指ぬき穴を開けます。

作例は特別に円板の四方に組手で板を倒立させ、側面を垂直に支えた構造にしています。

成形型を入れた後は輪ゴムで縛って形を定着させます。成形型作りには手間がかかりますが、円形の成形を補完する重要な作業の一つです。

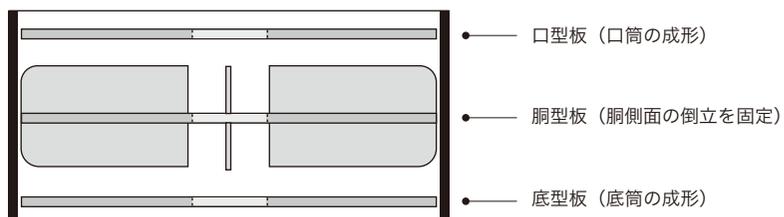
POINT



成形型

- ・円環成形法
- ・ゆび抜き穴
- ・組手
- ・輪ゴム

■シリンダー型付けの断面図

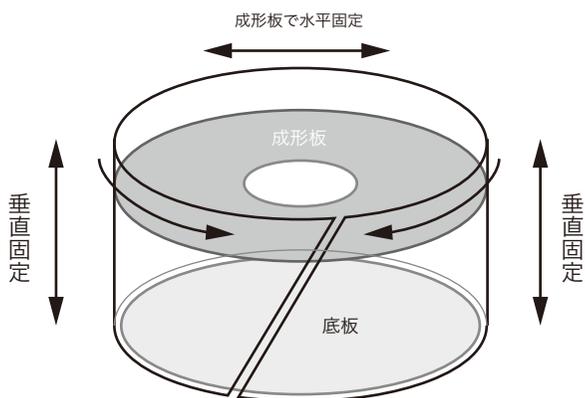


円形と円筒成形の違い

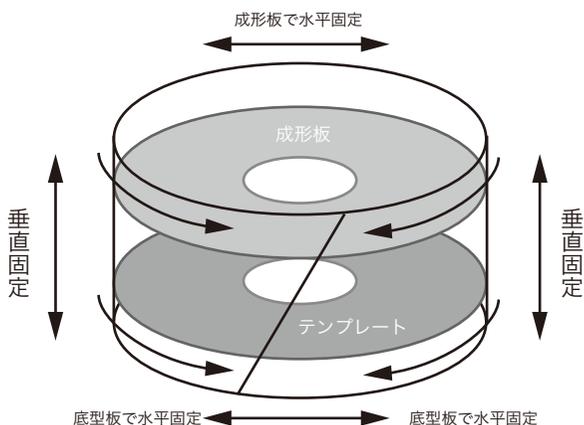
カルトンを曲げて円形の状態にする上で重要な作業が、カルトンの曲がりを矯正する「型付け」です。

一般的なサークル形の箱は、底板に胴を巻いて接着した後に、口開きだけを円形に型付けすればよいのですが、円筒形は固定する底がないため、予めカルトンで円筒に巻いた状態をつくり、口と底の二カ所に型板を入れて、円筒の曲げを水平・垂直方向に保った状態で定着しなければなりません。

【口縁のみの成形】



【筒状の成形】



Construction

化粧組み付け



化粧組み付けの手法

一般的なカルトナージュの作り方は、カルトンを芯材にして指定の位置で順に接着していく組み立て方です。芯材で箱に組み立てておく
と布地の貼函がしやすいからです。

作例のパウダーボックスは、全てのカルトンの寸法にクロスの厚みを加えたみなし寸法で紙取りし、パーツごとに化粧貼りをして組み立てる「化粧組み付け」の方法をとっています。

通常の組み付け方法では、化粧貼りの段階で表装に重ね代や巻き代が現れてきますが、化粧組み付け方式は一旦化粧貼りしたパーツを組み付けていくため、カルトンパーツを包んだ段階で、重ね代や折り返し代がパーツの裏面に回り、表装に現れる重ね代が少なくなる効果があります。

POINT

組み付け部品

- ①外装側面
- ②内装底面
- ③内装側面
- ④外装底面

組み付け

- ・化粧組み付け
- ・重ね代
- ・折り返し代

Wrapping

シリンダーの包み



シリンダー型(外装・筐体)の化粧貼り

型付けしたシリンダーにコーデュロイの厚手で化粧仕上げをした段階です。巻き返し代は、内に折り返すだけで裁ち入れなし。側面の代は裁ち落としの継ぎ合わせです。

コーデュロイは縦畝(たてうね)をもった織物ですから、布地の方向を正しく定めて巻き貼りするために、型付け板を入れたまま、引っ張りすぎず、弛ませない力加減で張っていきます。

化粧貼りする際の留意点は布地の引き張りです。そもそもカルトンの反りや変形は、水分による厚紙の伸縮によるものですが、水貼りテープや布地の張り過ぎも原因の一つです。型付け後、口と底の型付けを取り外し、内部の型付け板を残したまま円筒を包みます。外側面への巻き貼り時と、口・底の巻き返し代の引き方を、バランスよく行うことで、シリンダーの形をしっかりと保持させた成形を行うためです。

POINT

化粧貼り

- ・巻き返し代
- ・突き合わせ
- ・継ぎ手
- ・引き張り

内装シリンダー



内装側面も外装と同じシリンダー形状ですが、外装・筐体とは逆の仕立てになる。落とし蓋と底面を入れるため、落とし込み幅を引いた高さで組み上げ、内側から化粧貼りし外に巻き返しをして仕上げる。

内装と外装の組み立て（スリーブ）



外装・筐体シリンダーと内装シリンダーは、スリーブで組み付ける。互いの巻き返し代面で合わせるため、モデル設計では、使用布地の厚みを考慮した内法をみなしておく。組み付けは、外装・内装の裁ち代位置を合わせてスリーブさせる。



Flooring

モザイクトリム



底面のモザイク貼りとフィックス

底板はコーデュロイの縦縞が方向性を持っているため、縞模様が円形の中心に向くよう並べ直した、モザイク貼りの化粧方法です。側面の裁ち代と底面の目地を合わせて組み付ける、細かな配慮まで求められます。

下図はシリンダーの内法に底面をフィックス（はめ合わせ）させた組み付け仕上がりです。通常は側面の巻き代を、底板で隠すのですが、フィックスは、互いの化粧裁ちが内側に隠れるため、側面と底面の目地がすっきり仕上がるのです。



POINT

モザイクトリム

- ・フィックス
- ・目地

内装底の化粧包み



モザイクで貼り込む内底の化粧包み。底面のトリム方法とは異なり、個別に裏打ち紙を芯にして包んだパーツに仕上げしておく。

内底への貼り込み



内底を貼り込む前提で、内装シリンダーを組み立てておく。外装シリンダーに底板をフィックスさせ、内装シリンダーのスリーブは内底と付き合わせる。内装シリンダーの裁ち代の位置から、内底に寄せ合わせて埋め込む。



Interior decoration

内装の拡張性



組み仕切り

ジュエリーボックスとして使用するなら、機能的な内装を考えて内装の仕切りやホルダーを入れることもできるでしょう。

身箱の内部に取り外しができるリングホルダーを入れて、左右に収納スペースを残す内装の仕切り方が一般的です。仕切りはパーツごとに仕立てたものを入れて組んだものです。



POINT

組み仕切り部品

- ・組み仕切り
- ・ホルダー
- ・収納スペース

Box shape

フリルシェイプ


サークル形から花形に拡張した例

サークル形からフリルに拡張し、リッドの仕様をタップ式にした作例です。フリルシェイプは「波丸」形のことで、波や花を象徴する、波打つ曲線で構成された図形です。波丸の製図は、正円に内接する正六角形の六角と六辺を、反向曲線で結んだ作図法です。円弧を反向して切り替えることで、側面が波形・花形に表現されます。

リッドには同じドロップ型のノブを用いていますが、蓋の側面をできるだけ薄く設え、身箱の口に栓をするような閉め方をする「タップ式リッド」という仕様をしています。被せ蓋式に似た形態ですが、身箱に浅く掛かる蓋になっています。

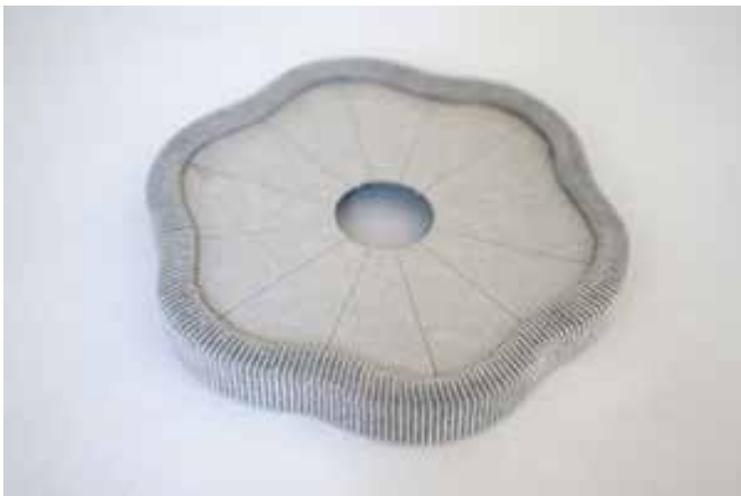


POINT

拡張性

- ・フリルシェイプ
- ・波丸六角形
- ・反向曲線
- ・タップ式リッド

フリルリッドのリム構造



身箱に浅く掛かるタップ式の蓋は、蓋の側面を輪縁状にした「リム」の構造で組み立てる。リムの化粧貼りは、側面から天面に掛かる縁にまで折り返している。



リムの裏面にまで化粧貼りを折り返している。内装天面は六面に分割したモザイク貼り。



上げ底フィックス



胴側面にフィックスさせた底面は、ベタ底ではなく上げ底にも拡張することができる。天面裏、内底面と同じ六面のモザイク貼り。

フリルシェイプ



フリル形の外装管体と内装管体をスリーブで組み付けたフリルシェイプ。



CARTONNAGE
*Powder
Style* パウダーボックス

2024年8月1日 第3版

著者 濱本修徳

発行 Tassel&Cartonnage / PASSAMANO.JP

<https://www.passamano.jp>

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、著者、発行者の許諾を得ずに、無断で複写、複製することは禁じられています。

TASSEL & CARTONNAGE

Copyright © 2015-2024 Passamano All rights reserved.

Published by PASSAMANO.JP

Text, Illustration, Photography, Design, Original Japanese edited by Tassel N

First edition 2015.7.7